



「世界の知床」を目の当



世界自然遺産とは

国際連合教育科学文化機関（UNESCO）で採択された世界遺産条約は、「顕著な普遍的価値」を有する文化遺産及び自然遺産を国際的に保護する体制の構築が目的です。世界自然遺産として登録されるためには、次の4つの基準のうちの一つ以上に適合する必要があります。

1. 自然景観

ひととき優れた自然美をもった自然現象や景観を有する地域。

2. 地形・地質

過去の生命の歴史や、地球の歴史の証拠となるような重要な地形・地質等がよく顕れている地域。

3. 生態系

現在も進行中の生物の進化や生物群集の見本となるような、極めて特徴のある生態系を有する地域。

4. 生物多様性

絶滅危惧種の生息地や、生物多様性の保全上もっとも重要な生物が生息・生育する地域。

知床は、上記基準の3と4が特に該当するとして登録されました。また保護・保全の十分な保証も評価されています。

ほかの世界自然遺産登録地域には、グランドキャニオン（アメリカ合衆国）、キリマンジャロ国立公園（タンザニア）、ガラパゴス諸島（エクアドル）、グレートバリアリーフ（オーストラリア）などがあります。

知床五湖、 高架木道を歩こう。

雄大な景色を
ゆっくり歩いて
愉しもう!!



たりにする。

知床



日本で3番目。世界自然遺産登録。

アイヌ語で「Sir-etok(地の・突出部)」を意味する「知床」。断崖に縁取られる半島がオホーツク海に突き出し、その険しい山々、深い森、草原、多くの川や湖、流氷など多様な自然の恩恵によって、野生動物本来の営みが守られてきました。

海から陸へとつながる生態系がわかりやすく見られること、希少な動植物の生息地となっていること、これらを保全していくための管理体制が整っていることが評価され、2005年、日本では3番目にUNESCOの世界自然遺産に登録されました。



知床五湖の散策には、地上遊歩道と高架木道があります。いつでも歩ける気軽さと眺望が人気の高架木道は一湖湖畔まで続き、全長約800m。ヒグマが登れないように高さが2～5mあり、電気柵をそなえているので、開園中はいつでも安全に散策できます。3つの展望台があり、湖に映る知床連山や遙かに広がるオホーツク海などの絶景を見晴らせます。段差がなく傾斜を抑えているため、車いすでも通行可能です。

知床五湖ルートマップ

2つの道で楽しめる知床五湖。見どころとルールをしっかり押さえて原生の森と野生動物の息吹を体感しましょう。地上遊歩道の利用は期間により申請手続きや有料レクチャー受講が必要です。またヒグマ活動期には登録引率者のガイドツアー限定の散策となります。高架木道のみ利用は、シーズンを通じて無料で手続きもありません。

高架木道	高架木道往復ルート (往復約1.6km、所要時間:約40分)
地上遊歩道	小ループ (1周:約1.6km、所要時間:約40分)
地上遊歩道	植生保護期大ループ (ガイド無し、1周:約3km、所要時間:約90分)
高架木道	ヒグマ活動期大ループ (ガイドツアー、1周:約3km、所要時間:約3時間)

各ルート利用期間、レクチャー受講料などについての詳しい情報はこちらから

▶ <https://www.goko.go.jp>

